

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

# CASBEE 新築[簡易版]

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI/BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010bpi&bei(v.2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)川西市中央北計画	階数	地上2F
建設地	兵庫県川西市中央町574の一部他	構造	S造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	606 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2014年12月1日
敷地面積	7,308 m <sup>2</sup>	作成者	角谷 泰生
建築面積	1,340 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,651 m <sup>2</sup>	確認者	

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: A: B+: B-: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値	100%
建築物の取組み	73%
上記+ 以外の	73%
上記+ オフサイト手法	73%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 4

LR1 エネルギー: 4

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 2

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.0

音環境	視環境	温熱環境	空気環境
N.A.	N.A.	N.A.	2.0

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.2

機能性	耐用性・信頼性	対応性・更新性
N.A.	2.1	2.3

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.0

生物環境	まちなみ・景観	地域性・アメニティ
4.0	4.0	4.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

建物の	自然エネ	設備システ	効率的
N.A.	3.0	5.0	N.A.

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

水資源	非再生材料の使用削減	汚染物質回避
3.0	3.4	3.0

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.6

地球温暖化への配慮	地域環境への配慮	周辺環境への配慮
4.0	2.3	1.6

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
立体駐車場の一般建築物(閉鎖型建築物)ではなく、開放性のある建物として設計し、換気設備や、建築材料(内装)の使用を極力無くした設計をした。	特になし	
Q1 室内環境 換気設備を設けずに、自然換気出来るように、外周部に十分な開放性のある外壁面とした。	Q2 サービス性能 外装設計において防錆対策として溶融亜鉛メッキ仕上げを採用	Q3 室外環境(敷地内) 建物の形状や色彩において街並みや風景にバランス良く調和させている。 また植栽により良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー 照明設備の制御方法の工夫(自動点滅器、タイマー)	LR2 資源・マテリアル 消火剤について、加圧ガスをCO <sub>2</sub> 、N <sub>2</sub> を使用しフロン・ハロンの回避をしている	LR3 敷地外環境 適切な駐車スペースを確保している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される